

地球温暖化の防止

クボタグループは、その事業特性から地球温暖化の防止活動について生産段階に重点を置いた展開を行っています。今年度からCO₂削減への取り組みをさらに強化するため、新たに中期目標を定め強力に推進します。

CO₂の削減

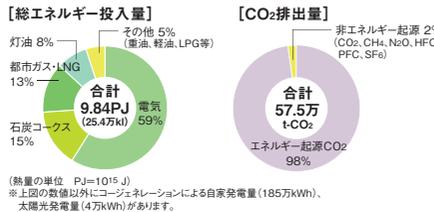


総エネルギー投入量とCO₂排出量

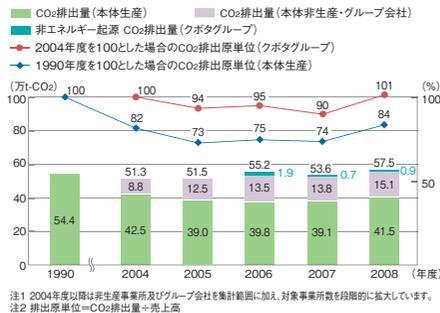
CO₂排出量は57.5万t-CO₂で、2004年度比12.3%増(前年度比7.4%増)、CO₂排出原単位は前年度比12.0%増で目標は未達成となりました。

これは、集計対象事業所の拡大(グループ会社非生産事業所)が要因の一つです。また、電気事業者のCO₂排出係数の増加も要因となりました。

2008年度の省エネルギー対策として、高効率なコンプレッサーや変圧器・照明器具等への更新、設備のインバーター化等を実施しました。



CO₂排出量とCO₂排出原単位の推移



物流におけるCO₂排出量

(荷主としての貨物輸送量とCO₂排出量)

国内における荷主としての貨物輸送量は3.9億トンキロで、その貨物輸送によるCO₂排出量は4.6万t-CO₂となりました。

また、物流CO₂排出原単位は、前年度比で1.9%低減しました。

【貨物輸送量の推移】



【物流CO₂排出量とCO₂排出原単位の推移】



注1 2005年度以降はグループ会社を集計対象範囲に加えています。
注2 排出原単位=CO₂排出量÷運送売上高
注3 算定方法の見直しにより2006~2007年度の数値を変更しています。

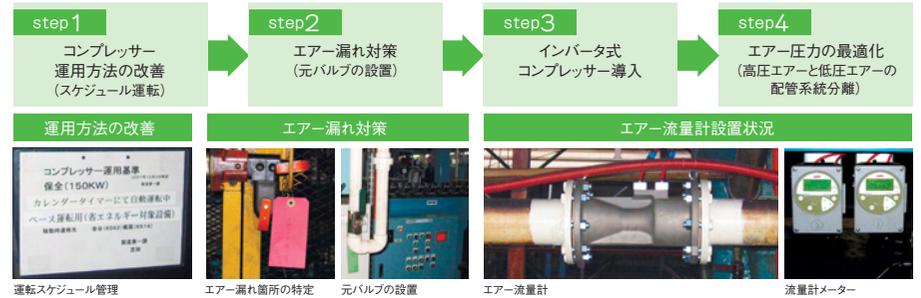
「換算係数」の詳細は下記ホームページをご覧ください。
<http://www.kubota.co.jp/siryou/csr/index.html>

実践報告 堺臨海工場におけるコンプレッサーの省エネルギー活動

堺臨海工場では省エネルギー推進委員会を中心として省エネ意識の徹底を図り、ムダ排除活動、設備改善活動を推進してきました。その中で、最も大きい省エネ効果を上げているのは、コンプレッサーの電力使用量低減活動です。

従来、コンプレッサーの電力使用量は事業所全体の電力使用量の約30%を占めていました。今回の改善活動において、

事業所全体の電力使用量に占めるコンプレッサーの電力使用量の割合を20%まで削減することを目標に掲げ、以下の諸対策を実施しました。1年半の活動の結果、事業所全体の電力使用量の20%まで低減し、目標を達成しました。(効果: 213t-CO₂/年) 今後も引き続き、より細かな運転管理を実施し、更なる電力使用量低減によるCO₂削減に取り組みます。



【事業所電力使用量に占めるコンプレッサー電力使用量の割合】



ハイライト

CO₂削減の新たな削減目標を設定し取り組みを強化

削減目標: CO₂排出原単位を4年間で10%以上削減(2009年度~2012年度)

地球温暖化問題への世界的な取り組みで我が国は、京都議定書において1990年基準で6%の温室効果ガス排出量の削減を2008年から2012年の第1約束期間において達成しなければなりません。

クボタグループでは、現在まで生産工程での徹底した省エネルギー活動を中心としたCO₂削減に取り組み、2008年度実績ではCO₂排出原単位で1990年度比32.2%の削減を行いました。

今後は地球環境問題の重要課題である「地球温暖化の防止」をクボタグループの環境保全活動の最優先課題と位置付け、新たな目標を2012年度にCO₂排出原単位10%以上削減(2008年度基準)と設定し、一層の推進を図っていきます。

【CO₂排出原単位の推移】

